

TTC ゆった〜り山行実施記録表

2022年12月05日 YM(1/6)

山行名	尾道・宮島・広島ハイキング&ウォーキング [弥山 535m/広島県]		
実施日	令和4年11月26日(土)~28日(月) 2泊3日 公共交通機関利用		
天候/参加人員	天候:11/26:曇りのち晴/11/27:快晴/11/28:晴、レベル:★★ 参加者:申込 14名/実施14名(男性4名/女性10名)		
パーティスタッフ	省略		
参加メンバ	省略		
費用	<p>53,740円(交通費①+②)¥29,940+宿泊費¥22,600+④入園料+⑤雑費¥1176+カンパ金¥26)</p> <p>一人当たり: 53,740円 (小田原起点)</p> <p>【注】メンバ配布クーポン券;地域クーポン券¥3,000+広島県産酒類購入クーポン券¥2,000/合計5,000円分</p> <p>TTCカンパ金: 340円</p> <p>① JR交通費:JR乗車券(ジパングクラブ30%引/小田原⇄宮島往復10%引)+こだま自由席特急券(30%引/三原⇒広島¥690)¥15,310、新幹線特急座席指定券(往路:小田原⇒福山¥6,880+帰路:広島⇒小田原¥7250)⇒¥14,310/JR交通費計¥29,440</p> <p>② 現地交通費:尾道善光寺山ロープウェイ片道¥500、宮島ロープウェイ(シニア割¥1,000/お買い物クーポン券使用):¥0、広電(広島駅⇒原爆ドーム前¥220/各自PASMO支払い)¥0/現地交通費計¥500</p> <p>③ 宿泊料金:(a)広島:アパホテル広島駅前大橋(朝食付ツインルーム7室:@8000-全国支援割40%割引⇒¥4,800(買物クーポン券¥1,000/人受領)、(b)国民宿舎みやじま杜の宿(最上級会席コース夕食/朝食付き10畳和室5室(2・3人/室):¥22,800-全国支援割¥5000)¥17,800(地域クーポン券¥3000+広島県産酒類購入クーポン¥2000/人受領)/③2泊分宿泊費計:¥22,600</p> <p>④ 拝観料・入園料:尾道林芙美子記念館志納金¥100:各自支払い)¥0、厳島神社拝観料¥300、豊国神社入場料:¥100、広島平和記念資料館入館料¥200、広島城天守閣入場料(シニア料金)¥180、縮景園入園料(シニア料金無料)¥0/④拝観料・入場料計:¥780</p> <p>⑤ 雑費:宮島飲物代(乾杯用ビール、ウーロン茶、その他)¥3040、通信費¥2,500/⑤雑費合計¥5,540/一人当たり@396</p> <p>⑥ 集金(¥29,440+24,300)¥53,740-費用合計(JR乗車券¥29,440+現地費用計②+③+④+⑤¥24,276)¥53,716⇒残@24⇒残金合計(~@24x14)¥340(TTCカンパ金会計に繰入)</p>		
	11/26 尾道ウォーク	11/27 弥山登山・宮島ウォーク	11/28 広島市内ウォーク
所要時間	行動時間	行動時間	行動時間
計画(/行動)	/~4.5時間	弥山登山~4時間/~8時間	/~5.5時間
実行(/行動)	/4:10+Op1:45 or 2:00	弥山登山3:50/6:30+Op 1:10	/宮島0:22+広島市内~6:00
歩行数	~17,000歩	~23,000歩+Option~4,000歩	~22,000歩
コースタイム			
<p>◆11/26(土) 天候:曇り後晴(海岸通りから尾道千光寺・石段を下り、尾道商店街を散策。夕方広島市に移動・駅付近ホテル宿泊)</p> <p>集合6:45 ひかり631号 のぞみ5号 山陽本線 海岸通り0:35 千光寺山ロープウェイ(昼食) 0:28 0:20</p> <p>小田原駅== (名古屋乗継) == 福山 == 尾道駅 ---- ロープウェイ山麓駅 == 千光寺山頂駅・展望台 -- 千光寺(文学の小径・6:56 8:08 8:12 10:03 10:17 10:36 10:50 11:35 11:40 11:45-12:10 12:38 12:50</p> <p>ウトラ 0:10 0:28 (見学) 0:10(15:00まで自由行動)山陽本線 こだま857号 0:15</p> <p>天寧寺海雲塔・猫の小道) --- 良神社 --- 商店街入口 --- 林芙美子記念館 --- 尾道駅 == (三原乗換) == 広島駅 --- アパホテル</p> <p>13:05/13:15 13:25 13:53/14:00 14:10-15:00/15:18 15:32 16:09 16:41 17:00 17:15 着</p> <p>(みっちゃん6人/いっちゃん4人) (泊)</p> <p>●広島焼食べに2グループに分かれて駅方面へ:10人グループ:アパホテル広島駅前大橋 --- 広島駅ビル「EKIE1F飲食街」 --- ホテル</p> <p>17:45 出発 18:00 19:20 19:30 帰着</p> <p>◆11/26(日) 天候:終日快晴(宮島に移動、弥山登山・大聖院・厳島神社・大鳥居・千畳閣・五重塔・国民宿舎みやじま杜の宿)</p> <p>朝食6:30-/集合7:50 0:17 山陽本線 0:05 JR西日本フェリー 杜の宿送迎車に荷物預け 0:30</p> <p>アパホテル --- (セブンイレブンでオニギリ調達) --- 広島駅 == 宮島口駅 --- 宮島口桟橋 ~ 宮島桟橋 --- (紅葉谷公園) --- 紅葉谷駅</p> <p>7:50 8:07/8:10 8:35 8:40 8:55 9:05/9:25 9:55/10:05</p> <p>宮島ロープウェイ 0:05 0:09 0:18 0:15(昼食) 0:25 大聖院コース 0:37 0:47</p> <p>~~ 榎谷駅 ~ 獅子岩駅 --- 獅子岩展望台 --- コル(紅葉谷コース分岐) --- 本堂・霊火堂 --- 弥山山頂 --- 仁王門 --- 中堂跡広場 ---</p> <p>10:15 10:20 10:25/10:38 10:47 11:05/11:13 12:28/13:10 12:35/12:40 13:17/13:23</p> <p>0:13 0:11 0:10 0:15 (2/6)</p> <p>--- 大聖院 --- 厳島神社 --- 大鳥居見学 --- 千畳閣・五重塔 --- 国民宿舎みやじま杜の宿(泊) 夕食(最上級会席コース:18:00~20:00)</p> <p>14:10/14:17 14:30/14:44 14:55/15:10 15:20/15:40 15:55 到着</p>			

●Option: ライトアップ鑑賞散策/11名参加 所要時間: ~1:10/歩行数~4,000歩

杜の宿 20:30---(西松原・厳島神社・東松原)---21:40 杜の宿

◆11/28(月) 天候: 終日晴(原爆ドーム・平和公園・平和記念資料館・広島城・縮景園)

朝食 7:00~7:30	0:23	フェリー	0:05	山陽本線	路面電車	
国民宿舎---(大鳥居/厳島中間地点歩いて横断)---宮島棧橋~~宮島口棧橋---JR 宮島口駅===広島駅--広電広島駅==						
8:15	8:38/8:40	8:50/9:00	9:05/9:20	9:52/10:00	10:10/10:12	
0:20	(見学:12名)	(昼食)	0:44 (トイレ)	0:15 (見学)	0:20 園内散策&Coffee Brake	
原爆ドーム駅--(原爆ドーム・平和公園)--広島平和記念資料館・平和公園ベンチ---護国神社---広島城天守閣---縮景園(茶店で休憩)						
10:30	10:50-11:50	11:50/12:20	13:04/13:10	13:25/13:50	14:10/14:50(14:10-14:30)	
0:13 (自由行動:お土産タイム)	のぞみ 118号	ひかり 662号	0:03	小田急急行		
---広島駅ビル「EKIE」---広島新幹線駅===(名古屋乗継)===新幹線小田原駅--小田急小田原駅==本厚木駅						
15:03-16:30	16:30/17:06	19:21	19:31	20:38	20:41/20:44	21:24 到着

コースの概要、特記事項、反省事項等

◆計画立案まで: シアムバから、岩国・宮島・広島に是非行ってみたいとのリクエストがあり、2019年度秋にゆった〜り山行として、本報告者が立案を担当することになった。宮島観光と言えば、通常、宮島に2~3時間滞在して、厳島神社周辺を観光して、とんぼ返りするのがほとんど。世界遺産に登録されている宮島島内には、多くの神社仏閣や、広島県一の紅葉の名所があり、1200年前に空海が拓いた、霊山「弥山」にも是非登ってみたいと思っていた。そのためには、紅葉の見ごろの時期に宮島に1泊するプランは譲れないと考え、あれこれ行程を考えてみたが、往復新幹線利用では、納得のいく行程が組めず、また、紅葉最盛期の宮島の宿泊料金は、夕朝2食付きで2.5~3万円が相場。素泊まりで、1万円以下のゲストハウスもあるにはあるが、午後6時にはほとんどの店が閉まってしまう島内で素泊まり泊を選んだ場合、貧しい夕食で我慢することを意味するため、シアムバ対象の山旅としては、許容範囲外と思い、計画立案に苦慮したが、とりあえず宮島の宿泊先を押さえた後、詳細行程を検討する中で、2020年夏開催のオリンピック前に、傷みの激しい大鳥居を70年ぶりに、1年かけて2019年6月から改修工事に入るとの情報を得た。この間、足場が組まれ、養生用のシートで覆われて、工事期間中は、大鳥居の姿は見られないことが分かり、シアムバに事情を説明し、詳細な実施計画立案前に、実施を断念した経緯がある。

その後はコロナ流行で、実施できる状況ではない中で、2年が経過した。コロナ感染に落ち着きが見え始めた2022年秋に、訪問先の一つを岩国から尾道に替えて、9月末実施のスケジュールで再度エントリーした。計画の成否は、宮島に食事つきプランをリーズナブルな料金で少なくとも10名以上で宿泊できる宿を確保することにあつた。実施時期としては、やはり宮島の紅葉最盛期の11月中~下旬に何とか宿を確保できないかと、5月連休明けから、宮島の宿探しを始めたが、紅葉期の宮島の宿泊料金は、どこも飛び切り高い上に、NET予約はほとんど3ヶ月前からの予約受付。やむを得ず、心当たりの数軒の宿に電話した結果、国民宿舎みやじま杜の宿に、紅葉最終期の11/27(日)のみに、10畳和室4室分の空室があることが分かり、即座に4室/12人分の宿泊予約をするとともに、広島駅前のホテルにツインルーム6室を予約した。これにより計画の骨格が確定し、2022年6月例会で、実施計画の説明・提案をした。

8月例会締め切り時に、14名のメンバーの応募があり、慌てて、広島、宮島の両宿泊先の増室予約を行った。10月に入ると、ジパングクラブ手帳を使用した30%割引での乗車券購入に関し、新幹線ルートから外れる尾道で途中下車した場合でも、10%引になる往復乗車券適用になるか? JR西日本が運行する宮島フェリーを乗りついた先の宮島まで、往復割引乗車券の購入が可能か等々、事前にJTBイオン厚木店に2度通い、その後も、新幹線座席指定券発売日の10/26と10/28にもJTBに通った。JR乗車券・指定券購入の客は予約不可のため、午前10時開店時に入店して、エントリーしても、順番が来て呼ばれるのは、正午前と極めて時間がかかるJTBに癖々した。

14人の参加メンバーがいれば、過去の実績から想定すると、1~2人のキャンセルが出るのを覚悟していた。やはり実施約10日前1名のキャンセルがあつたが、事前にキャンセル待ち参加希望の申し出を受けていたメンバーがいたので、素早くメンバーチェンジして、14人で宿の手配と新幹線座席指定券の購入が済んでいる中、面倒なキャンセル処理等を行うことなく、14人のメンバーで実施できたのは、ラッキーだった。

ところが、最大の大仕事は、このあとやってきた。11月に入ってから、11/11スタートで全国旅行支援事業を開始するとの政府発表があり、すでに予約済みの11/11以降の宿泊も支援事業の対象になるという。そこで、2泊とも全国旅行支援割を受けるための大仕事に取り掛かった。宮島の宿は、NET予約限定のため、申込み開始時刻11/11午前0:00にOneClickで、10畳和室5室/14人分の予約が完了した。広島のホテルの方は、NETへのアクセスが集中して、なかなか繋がらず、繋がっても、全国支援割を利用した14人分全員のNET予約はどうしてもできず、2日ばかりでtryしても駄目だった。突貫工事で作った予約システムにバグがあるようだった。ホテルの予約係と電話で何度もやり取りし、最後は、これまでに予約してある内容と同条件に、全国旅行支援割を適用してもらうことで、一件落着となった。

全国支援割を受けるためには、check-in時に、全員のワクチン3回以上接種証明書と公的身分証明証を(3/6)提示して、旅行支援受給資格有無と本人確認を受けた後、広島県発行の同意書用紙に自署で、必要事項を記入したうえで、地域クーポン券をもらうという、対面でのかなりの時間を要する手続きが必要である。そのため、14人分の

check-in 手続きには、メンバー全員が蜜状態のフロントに長時間並んで待った後、手続きにも相当時間を要することが予想された。また、証明書類 2 点をコピーで提出して、トラブルが多発しているとの事前情報も得ていたので、メンバー全員にお願いして、証明書類はすべて原本とし、往路の新幹線内で CL がすべて預かって、一括対応の事前準備を整えて臨んだ。Check-in 時の混雑とトラブルを避け、スムーズに済ませるため、基本的に代表者一人で、14 人全員分の手続きを、政府が定めた手続きに違反しない範囲内で、短時間で効率よく、check-in が済む方法を、ホテル側に事前提案して、合意できていたので、2 泊とも短時間でスムーズに check-in でき、両ホテルから、感謝の言葉を頂いた。等々…、今回は、通常の宿泊山行に比べ、事前準備に何倍もの労力と知恵を要したことを特記したい。

◆11/26(土): 天候:曇りのち晴、(尾道千光寺方面をウォーキング後、広島市に移動して、駅前のホテル泊)

早朝 6:45AM 小田原駅新幹線改札口前に、小田急線利用メンバー 12 名が集合。東海道線から乗継メンバー 2 名は新幹線ホームに直行し、小田原 6:56 発ひかり 631 号線 14 号車の座席指定席に無事揃って乗車。名古屋でのぞみ 5 号に乗継ぎ、福山駅で、山陽本線普通電車に乗り換えて、今日の訪問地、尾道駅に 10:36 到着。ロッカーにザックを預けて身軽になったところで、早速、千光寺山公園に向かってウォーキングを開始した。

往路は、海を見ながら、海岸通りを東にそぞろ歩き。目の前には対岸まで 200~300m 幅の尾道水道の先に、向島(むかいじま)が間近に迫り、大小様々な船が行き交う。その先に、しまなみ海道が通る新尾道大橋(全長 546m)と全長 386m の一般橋「尾道大橋」の 2 本の吊橋。海岸にそって作られた防波壁の壁に数 10 点の尾道の風景画が描かれた「おのみち海辺の美術館」と名付けられた石畳を、磯の香と青空の下に広がる穏やかな尾道海岸の景観を楽しみながら、ゆったりと東に進んだ。おのみち海の家(中央棧橋)を過ぎ、住吉神社の先で左折して、薬師堂通りの坂を北に登り、商店街に出て、さらに進むと、観光バスの止まる広場の先で、山陽本線のガードを潜り、千光寺山ロープウェイの山麓駅に到着。尾道駅からここまで、ぶらぶら歩いて、45 分を要した。

乗車定員約 15 名のミニロープウェイに 3 分ほど乗ると、千光寺山公園頂上駅に 11:45AM に到着し、毛並みの良い猫のお迎えを受ける。今朝、4:00AM 頃起床し、朝早くから行動してきて、皆さん腹が空いたと、見晴らしの良い場所に素早く陣取って、早速ランチタイム。眼下に箱庭のように広がる尾道の町並みの先に、尾道水道を挟んで、向島、因島、大三島等々が重なり合い、左手にしまなみ海道の吊橋と高速道路が続いている。千光寺山の高みからの景観を「箱庭のような景色」と形容されるそうだが、まさにその形容にピッタリだ、神奈川では、まず見られない見事な、家並みと瀬戸内海の中に重なり合う島々とが織りなすジオラマを見るような見事な景観だった。

最近設置された、金属製の大規模な頂上展望台に登って、360 度の大展望を楽しんだ後、尾道ゆかりの文人の歌碑が点在する文学の径を下って、朱塗りの舞台造のお堂が崖からせり出すように作られた千光寺からの大展望を楽しんだ。

一際存在感をもって眼下に起立する天寧寺三重塔を目標に、石段を下り、「猫の小径」の案内板に導かれて、狭い石畳を下ってゆくと、お目当ての猫の姿はほとんどなく、両側に少々異様な景観の店が並ぶ小路の先には、先ほど登ってきたロープウェイ山麓駅のすぐ上に見えた、特別大きなクスノキが際立つ、良(うしろ)神社境内に出た。

この神社は、806 年創建の旧尾道市最古の神社で、境内に樹齢約 900 年のクスノキの大木が 4 本あり、その中で、拝殿右わきのクスノキが特に大きく、幹周囲 7m ある市指定の天然記念物だという。当初考えていたコースより少し東側に下山してしまっただが、登り返すのもしんどいことから、山陽本線の線路沿いに西に進んでから、トロな商店が立ち並ぶ尾道商店街に出て、尾道駅に向かってぶらぶら歩きを楽しんだ。駅近くの「林芙美子記念館」に立ち寄り、林芙美子の銅像の前で記念写真を撮影しながら、尾道駅まで戻った。ちなみに、放浪記の作者として、名高い林芙美子は、山口県で生まれた後、尾道市で、小学校から、尾道高等女学校を卒業するまで、この地で暮らした、尾道を代表する文学者として、駅近くのメインストリートにその名を残している。

15:18 発の電車に乗って、広島駅に移動するまで、1 時間ほど余裕があったので、その間自由行動としたが、半数近くのメンバーが、全国的に有名な尾道ラーメンの味を楽しんだようだ。

尾道から山陽本線で、西に 2 駅移動し、三原駅で、山陽新幹線に乗り換えて、広島駅 16:41 と早めに到着し、駅近くに予約してあった、アパホテル広島駅前大橋に直行した。何しろ、客室 700 室超の中国地方最大規模のビジネスホテル。午後 6 時を過ぎると、全国旅行支援割を利用した宿泊客で、フロントが混雑すると予想して、5:15PM と早目の check-in が、功を奏し、また、十分な事前打ち合をして決めた手順に従って、CL と会計係 2 名が 14 名分の証明書原本セットと、同意書 7 通を持参して、フロントで、証明書照合、check-in、料金支払い、カードキー発行、クーポン券発行と素早く対応していただいた。対応して頂いたフロント係が、私が何度もメールや電話でやり取りした方だったので、カードキーやクーポン券はすでに用意してあったようだ。2 種類の証明書を透明の封筒の両面に入れ、封筒を開けずにそのまま封筒の裏表を見て、記載内容が確認できるように工夫して持参したので、何のトラブルもなく、あっという間に照合が済み、ホテルの係員から、素晴らしい方法で、証明書類を持参いただいて、大いに助かりましたとの感謝の言葉を頂いた。

部屋に荷物を置いてから、夕食を食べに、駅方面に出かけた。若手 5 名は、南口広島フォーカスビル 6F の (4/6) 「駅前広場」の広島焼店に、残り 9 名は、駅ビル「EKIE」1F の「広島焼店」に向かった。6:00PM と、早めに到着したのだが、土曜日ということもあってか、第一候補の広島焼の元祖とされる「みっちゃん」はすでに入店待ち客が数十人

並び、待ち時間 1 時間強だという。1 時間待っても食べたいというメンバー 5 人と、そんなに待ちたくないというメンバー 4 名は、隣の「いっちゃん」に 30 分待ちで「広島焼」にありついた。広島焼とは、大阪のお好み焼きに、キャベツとそばまたはうどんを乗せて焼いた、お好み焼き変形バージョンという認識しかなかったが、実際は、似て非なるもので、全員から「おいしかった。食べてよかった。」との感想が聞かれた。いっちゃん組は 7:30pm、みっちゃん組は 8:00pm 頃、ホテルに帰着し、大浴場にゆったり浸かってから、ツインルームのベッドで、ぐっすり眠ったようだ。

◆11/27(日):天候:終日快晴、(広島市から宮島に移動し、弥山登山。大聖寺、厳島神社等を巡って、宮島泊)

6:30AM オープンのホテルレストランに一番乗りで入場し、バイキング形式の朝食をいただく。ビジネスホテルの朝食としては、相当ハイレベルだ。駅に向かう途中のコンビニで、昼食のオニギリを仕入れ、計画より 1 電車早い電車に乗って宮島口駅直行し、1 便早いフェリーに乗船して、宮島に向かう。途中、宿泊先の「国民宿舎みやじま杜の宿」に電話して、宿に預かってもらう荷物を引き取りに、宮島フェリー駅に車を出してもらうように依頼。

午前9時台の宮島は、まだ観光客もまばら。開店前のお土産が並ぶ商店街を抜け、工事中の桟橋が残る大鳥居と厳島神社を横目で見ながら、遅くなると混み合うことが予想される宮島ロープウェイの山麓駅「紅葉谷駅」に急ぐ。途中、車道を外れ、紅葉橋を渡って、紅葉谷公園の紅葉を愛でながら、ケーブル駅に向かった。広島県随一の紅葉の名所「紅葉谷の紅葉」は、すでに最盛期を過ぎて、色あせていないかどうか、少々心配していたが、まだまだ色鮮やかなモジの葉でドレスアップした姿で我々を歓迎してくれた。

宮島ロープウェイは、途中の榎谷で乗り継ぐ2段方式。シニア割引料金 1000 円は、広島のホテルで買ったクーポン券をそっくり充当して、実質支出 0 円。少々混み合っていたが、ほとんど待つことなく、順調に終点の獅子岩駅に到着できた。獅子岩展望台に立ち寄り、瀬戸内海に浮かぶ江田島をはじめとする多くの島々の景観を楽しんだ。天候が良ければ、四国も見えるところであったが、どれが四国なのか？残念ながら確認できなかった。

ここから眺める弥山は、花崗岩の岩峰を要所々に配置し、威風堂々たる雄姿を見せており、かなり手ごわい登りに感じた。登山道は、一旦紅葉谷登山道が合流するころまで、標高差~30m ほど下ってから、弥山本堂・霊火堂への本格的な登りになる。地元廿日市市の弥山登山ガイド記載の所要時間 17 分に対し、あちこち立ち止まりながら登ったとはいえ、我々 TTC パーティは、前記標準タイムの約 1.5 倍の 27 分を要した。これが、平均年齢~75 歳の TTC ゆったり山行パーティの実力のようだ。

弘法大師修行の地とされる弥山本堂には、本尊虚空蔵菩薩、脇侍に不動明王と毘沙門天が祀られており、最初に参拝した。次に向かいの霊火堂内を一回りした。堂内の中央には、囲炉裏火があり、大鍋にお湯が沸いている。空海が灯した火が1250年後の現在まで、消えることなく燃え続けており、「消えずの火」と呼ばれているという。この火で沸かした湯(霊泉)は万病に効くといわれ、自由に飲めるとのことであったが、用意してあるはずの紙コップが見当たらず、誰もご利益を授かることができなかったのは残念だった。

弥山頂上へは、花崗岩の大岩が重なった「くぐり岩」のハースポットを潜り、さらに頂上直下の大岩を左にトラバースすると、3 階建ての巨大な展望休憩所が建つ、標高 535m の弥山山頂に到着する。好天に恵まれた日曜日の 12 時過ぎの弥山山頂には、大勢の登山者であふれかえり、思い思いにお弁当を広げて、360 度の大展望を堪能していた。TTC メンバも、空いている場所を探し、約 40 分のランチタイムを楽しんだ。展望休憩所のトイレは 2 ブースのみで、用を足すのも相当時間がかかって大変だ。

下山は、千満岩・大日堂を経て、大聖院登山道のスタート地点となる仁王門まで辿り、これから始まる大下りに備えて一休みした。この登山道は、空海が拓いた表参道で、本山の大聖院から一町(109m)毎に町石が置かれ、仁王門には 18 町目(約 2km)の町石が置かれていた。西側のピーク駒ヶ林(標高 509m)から、山麓の大元神社まで、原生林の深い森の中に付けられた裏参道とともに、1250m 前の開山からの歴史ある霊山への参詣道である。

大聖院コースは、南斜面の白糸川の谷筋に沿って付けられた、よく整備され、明るくて展望に優れた登山道である。途中、幕岩や岩屋に沢山の石仏が祀られた賽の河原等を見ながらゆっくり下り、中堂跡の広場で一休みしてから、里見茶屋跡の東屋、白糸の滝下に祀られた瀧宮神社や瀧不動を過ぎ、見事に色づいた紅葉樹に導かれて下ると、空海が拓いた弥山修験道場の本山「大聖院」の山門入口に到着した。仁王門からここまでの所要時間は、1 時間 30 分を要した。記憶があいまいだが、10 年ほど前、土石流により、大聖院登山道が長期間通行不能の時期があった。この時、大きな土砂崩れ被害に遭った白糸川の谷筋で、大規模な治山工事が続き、現在では、岩を積み上げた堰堤がいくつも作られ、崩落した旧登山道に代わり、立派な新登山道に付け替えられ、今では大変歩きやすい登山道に生まれ変わったようだが、その分、1250 年前に空海が拓いた歴史ある参詣道の面影はほとんどなくなってしまったように感じた。

大聖院は、見上げると行きたくなりそうな石段を 70~80 段登った先の山門をくぐった先にある。疲れた脚には相当堪えるアルバイトだ。石段左下に並ぶ赤い帽子を被った五百羅漢の石仏群を眺めながら境内に入り、右側の本堂(観音堂)にお参りし、頭上に聳える摩尼殿をバックに写した紅葉の景色が、ベストショットとの聞きかじりの情報に基づいて、その風景を写真に収め、正面の本尊波切不動明王の掛札がある勅願堂内に入って、秀吉が朝鮮出兵(5/6)の際、御身仏としたとされる本尊と、周囲に収められた千体不動にお参りしただけの、10 分足らずの滞在で、終わりにしてしまった。石段を下りる際、SL に石段中央の摩尼車に仕込まれた大般若経筒を回しながら、階段を上り降

りすると、般若心経を唱えたと同じ功德が得られるそうだと教えられて、慌てて摩尼車を回した。後日、大聖院について調べてみると、観音堂内の階段を降りると、真っ暗闇の中、壁を伝って進む「胎内巡り」、勅願堂の先の編廬窟には、四国八十八ヶ所巡りがここ1ヶ所で済む砂があるという。最奥の大師堂に安置されている一願大師像等、外せない見所がまだまだ沢山あること知ったが、すでに後の祭りだった。この後の厳島神社や、今日が最終日となる、工事用棧道を歩いての大鳥居見学の時限リミットを気にするあまり、大聖院の見所を案内できなかった不明をお詫びしたい。言い訳になるが、大聖院参拝に、時間をかけすぎてしまうと、結果的に、本日まで工事用棧道を使っての大鳥居下からの見学がタイムリミットにかかって、間に合わなかった可能性もあった。

これからの立ち寄り先に、①厳島神社参拝、②大鳥居見学、③千畳閣と五重塔拝観、④宝物館見学、の優先順位をつけ、ムバの疲労具合も考慮し、④はあきらめ、①→②→③の順位で回ることを提案し、ムバの了承を頂いた。最初に、厳島神社拝殿に2礼2拍手で参拝し、拝殿先の海に張り出した平舞台から、海上に起立する大修理が完了して、鮮やかな朱色に蘇った大鳥居をバックに記念撮影を済ませた。

この後、清盛神社が祀られている西松原から、工事用棧橋が大鳥居下まで延び、その工事用棧橋を見学用として開放するのは、宮島の紅葉祭り最終日の本日までだという。厳島神社参拝を終えて、工事用棧橋に向かって歩き始めると、宮司さんが、ハンデイスピーカーで、「もうすぐ大鳥居見学は終了しますので、急いでください。」としきりにアナウンス。時刻はまだ午後3時前だというのに・・・本日が、最終日につき、クローズが早いらしい。70年に1度の滅多にない機会を逃してはと、大鳥居見学用棧橋入口に急ぎ、締め切りに何とか間に合った。工事トラックの通行用に設置された鋼鉄製棧橋を大勢の観光客と行列しながら、大鳥居の真下まで進み、見上げながら、写真に収めた。この棧橋の開放は、今日が最終日で、明日から撤去工事に入るといふ。この後70年間は、この景観は見られないという貴重な体験ができて本当にラッキーだった。

この後、高台にある千畳閣の縁側に座って、弥山や厳島神社と大鳥居を眺めながら一休みしてから、今夜の宿、国民宿舎みやじま社の宿に向かった。目指す宿は、北側に宮島水族館、南側に大元公園の森に囲まれた静かな場所にあった。4:00pmのcheck-in開始時刻の5分前に到着した。この宿でも、事前に打ち合わせた方法で、すぐさま、14人分まとめたのCheck-in作業が済んだ。日曜から月曜日にまたがる宿泊では、一人3000円分の地域クーポン券の他、広島県独自の支援策として、広島県産の酒類が購入できる一人2000円のクーポン券がプレゼントされるという。事前には知らなかった、サプライズプレゼントを頂いた。

夕食は、ひと風呂浴びて後の6:00pmから、広い宴会場で、14人そろっての会席となった。全国旅行支援が受けられるプランが、最上位の22,800円の1種類のコースしかなかったが、5000円の割引が受けられる今回のような時にしか利用できない贅沢と割り切り、思い切って予約した。先付けのアワビ、広島産かきの土手鍋、フグの薄造り、松茸の土瓶蒸し、地元和牛ステーキ、フグの竜田揚げ、アマダイの蒸物、松茸ご飯等々、普段滅多に口にしない高級食材を使用した料理が次々に運ばれてきた。先ほどプレゼントされた一人2000円のお酒クーポン券や、クーポン券で購入した加茂鶴や酔心の大吟醸酒、味の異なる3種の宮島地ビール等を、～8名のムバから提供していただいた。通常のゆった～り山行の夕食膳には、乾杯用のビールしか出てこないのに、今夜の夕食膳には、地ビールや大吟醸酒が並び、美酒をたしなみながら、会席料理を存分に楽しむ、TTC山行ではめったにない豪華な夕食となった。大半のムバがほろ酔い状態となり、食後に予定していた、希望者のみによるオプションツアーとして実施予定だった、ライトアップされた大鳥居や厳島神社が幻想的に浮かび上がる姿を鑑賞するナイトツアーは、いったん中止と決めた。しかし、宮島に宿泊した人にしか味わえない貴重な景観を、やっぱり見てみたいとの声に押され、急遽実施することにした。希望者は8:30pmロビー集合としたところ、11名のムバが集まり、西松原～厳島神社～千畳閣辺りの海岸を散歩し、ライトアップされて、暗闇の中に幻想的に浮かび上がった、大鳥居、厳島神社、五重塔、大聖院摩尼殿の美しさに歓声をあげ、草むらにうずくまって眠りにつく鹿達に出会い、約1時間10分/4000歩の夜の散歩を楽しんだ。

◆11/28(月) 天候:終日晴 (広島市に移動し、原爆ドーム、平和公園、平和記念資料館、広島城、縮景園を訪問)

最終日は、宮島から広島市に移動して、平和公園や、広島城、縮景園等を歩いて巡る。宮島港に向かう途中、厳島神社前の浅瀬は、砂浜が広がっており、思いがけず歩いて対岸に渡ることができた。この日は中潮で、干潮時刻の6:12AMから、2時間もたっていたので、まさか海を歩いて渡れるとは、全く予想していなかった。

広島駅に移動し、駅のロッカーに荷物を預けて、身軽になったウォーキング。南口広電ターミナルから、原爆ドーム前まで、路面電車に乗っての移動だ。広島市内を走る路面電車には、原爆に被爆した651と652の2車両、旧京都市電の1900型、日本で最初に導入された最新の超低床式5100型があるとされる。できることなら、原爆に被爆しても、なお現役で走り続けている600型電車に乗りたかったが、我々が乗った電車は、超最新式の5100型電車だった。

原爆ドーム前で下車し、目の前に建つ「原爆ドーム」を観察しながら、元安川左岸沿いの道を南に歩いて、方向を変えながら、さらにじっくり観察した。原爆が投下された日、この付近の川には、水面を埋めつくすほどの被爆者が浮かんでいたそう。等々と当時の悲惨な被害状況を語り合いながら、元安橋を渡って平和公園に入り、オリヅルが沢山飾ってある「原爆の子の像」、弥山霊火堂の「消えずの火」を移し、それ以来、灯り続けている「平和の灯」、(6/6)毎年8/6に、不戦の誓いの言葉が述べられる「原爆死没慰霊碑」等を見学しながら、「広島平和記念資料館」で、

約 1 時間、資料館内に展示されている、原子爆弾投下がもたらした悲惨な被害状況を示展示物や写真をじっくり見
学し、改めて、不戦の誓いを新たにした。

資料館前の木陰のベンチで、昼食を摂ったのち、広島市自慢の道幅 100m の平和大通りを見学してから、平和公
園を北に縦断し、原爆供養塔、平和の鐘、平和の時計塔などを見学しながら、T字型の相生橋を渡って、原爆ドーム
前をやり過ごし、県庁やデパートが立ち並ぶ鯉城通りを北上し、広島城に向かった。お堀を渡った先が本丸跡の広場
と護国神社があり、日清戦争時には大本営が置かれ、この間、明治天皇も滞在していたという。その後、原爆が投
下されるまで、第五師団の司令部が置かれていたという。

原爆で焼失する前の広島城は、1589 年にこの地に築城され、初代城主は毛利輝元、西軍に味方して、この地を
追われて 2 代目藩主となった、福島正則も、徳川幕府に無届で、石垣修復をしたことが咎められて移封になり、3 代
目城主となったのが、家康の娘婿の浅野長晃で、浅野家が明治維新まで城主を務めたという。旧天守閣は国宝に
指定されていたそうだが、昭和 33 年に鉄筋コンクリート造による外観復元により、再建され、内部は、資料館として一般
公開されるようになったという。現在の広島城は、外壁が黒塗り板張り、内部に入らない限り、鉄筋コンクリート造とは
わからない。天守閣に登ると、広島の街が一望され、昨日頂上に立った、弥山とその右に聳える駒ヶ林が、双耳鋒
として、美しい姿で望むことができた。

城島城本丸跡には、被曝しても、生きながらえて、現存している被曝樹木の標識が付いた大木が目立つ。また、
宮島でも気づいたのだが、広島市内のあちこちに、真赤に紅葉したカエデの大木が目立ったが、関東では、真紅に
色づいた葉を茂らせ、樹高が 10m を超えるカエデの大木を目にした記憶はほとんどない。関東と山陽では、紅葉樹
の種類も結構異なるようだ。

広島城のお堀を渡って、東に 10 分ほど歩くと、最後の訪問地「縮景園」に到着する。縮景園は江戸初期の約 400
年前に、藩主浅野長晃が別邸の庭園として、家老で茶人の上田宗箇に命じて作庭させたと伝えられている。ちなみ
に、赤穂城主浅野内匠頭は、広島浅野家の分家にあたるという。縮景園は、広島県有数の紅葉の名所として広く
知られていることから、今回の立ち寄り先として選定した次第である。しかも、65 歳以上のシニアには、入園料無料と
いう広島市の高齢者に優しい対応もありがたい。

入園して、すぐ左にある茶店「泉水亭」で一休みし、抹茶にお菓子、ケーキにコーヒ等を頼んで、のどを潤してからの
約 40 分間の園内散策となった。その後、公園中央部に配置された池の周りを紅葉樹が多い場所中心に、時計回り
にほぼ一回りした。真紅に染まったモジが水面に映った景色は見事に美しい。モジに交じって、ひときわ鮮やかな
紅葉樹に気づき、あれはナカマド？とつぶやくと、植物博士の MH さんが、即座にあれは「ハゼの木よ」と教えてくれ
た。ハゼの木は西日本に多い樹木で、低温にならなくても、真赤に紅葉する庭木として西日本を中心に重宝されて
いるという。

最後の立ち寄り先「縮景園」から、広島駅は、徒歩 10 分強の至近距離にある。午後 3 時過ぎに、広島駅に到着し
た、駅ビル内の「EKIE」に立ち並ぶ広島土産店で、手に入れた一人 3000 円のクーポン券と 2000 円の広島地酒クーポン
券をまだ、使わずに持っているメンバは、ここで全部使ってしまうなければならない。新幹線乗車時間 30 分前の 4:30pm
集合とし、それまでの 1.5 時間をお買い物フリータイムとした。大半のメンバは、宮島名物のモジ饅頭類(最近では、1
個 150 円近くするスーパープレミアムのモジ饅頭が主流)や、瀬戸内特産の八朔やレモンを使った八朔大福/レモン味のお菓
子等も人気ようだ。ご主人へのお土産として、広島の地酒として有名な加茂鶴や酔心を買われたメンバもいたよう
だ。また、新幹線の中で頂く夕食として、アナゴずしやアナゴ飯(アナゴはシーズンオフらしく、宮島の夕食膳に登場しなかつ
た)、牡蠣フライや牡蠣飯などを買い込んだメンバも目立った。

広島発 17:06 発ののぞみに乗車し、名古屋でひかりに乗り換え、小田原には定刻の 20:38 に到着した。小田急
線へ乗り換えるメンバ 12 名は小田急線への乗り換え時間時間が 6 分、東海道本線に乗り換えるメンバ 2 名は 3 分し
かないという。新幹線を下車して、乗換電車まで、できるだけ早く到着できるように、車掌さんに、新幹線小田原駅ホ
ームで、下りエスカレーター一番近いドアの位置が 9 号車と 10 号車の間と教えてもらい、その情報に基づいて、停車前に
当該ドア前にスタンバイして、下りエスカレーター 3 基/上りエスカレーター 1 基、改札ゲート 2ヶ所を通過し、小田急線登り急行電車に
腰を下ろすまでに要した時間は、3分丁度で、余裕の乗換だった。小田急線乗換より時間のかからない、東海道本
線乗り換え組の 2 名も、多分無事に乗り換えたかと推察できた。今年のダイヤ改正で、乗り継ぎが悪くなり、この電車を
逃すと、30分あとの電車となり、バスの便がなくなるとの話もあったので、計画立案したCLとしてほっとした。

計画立案・実行段階とも、大変苦勞した2泊3日の広島県の山旅であったが、天候に恵まれ、また、タイミングよく始
まった全国旅行支援割をうまく利用でき、14名の大勢のメンバで、3日間で、6.6万歩を歩くという、少々ハードなハイキ
ング&ウォーキングであつてもかわからず、さすが、百名山登頂者が10名以上もいる超ベテランぞろいの TTC ゆった〜り
山行パーティー。弱音を吐くメンバもギブアップするメンバもなく、全員そろって、元気に帰着できたこと。さすが、TTC シニアメ
ンバと自慢に思う。元気はつらつと TTC シニアメンバに脱帽！生涯現役を目指して、まだまだ楽しい旅をしましょう！皆
様のご協力に感謝します。

以上